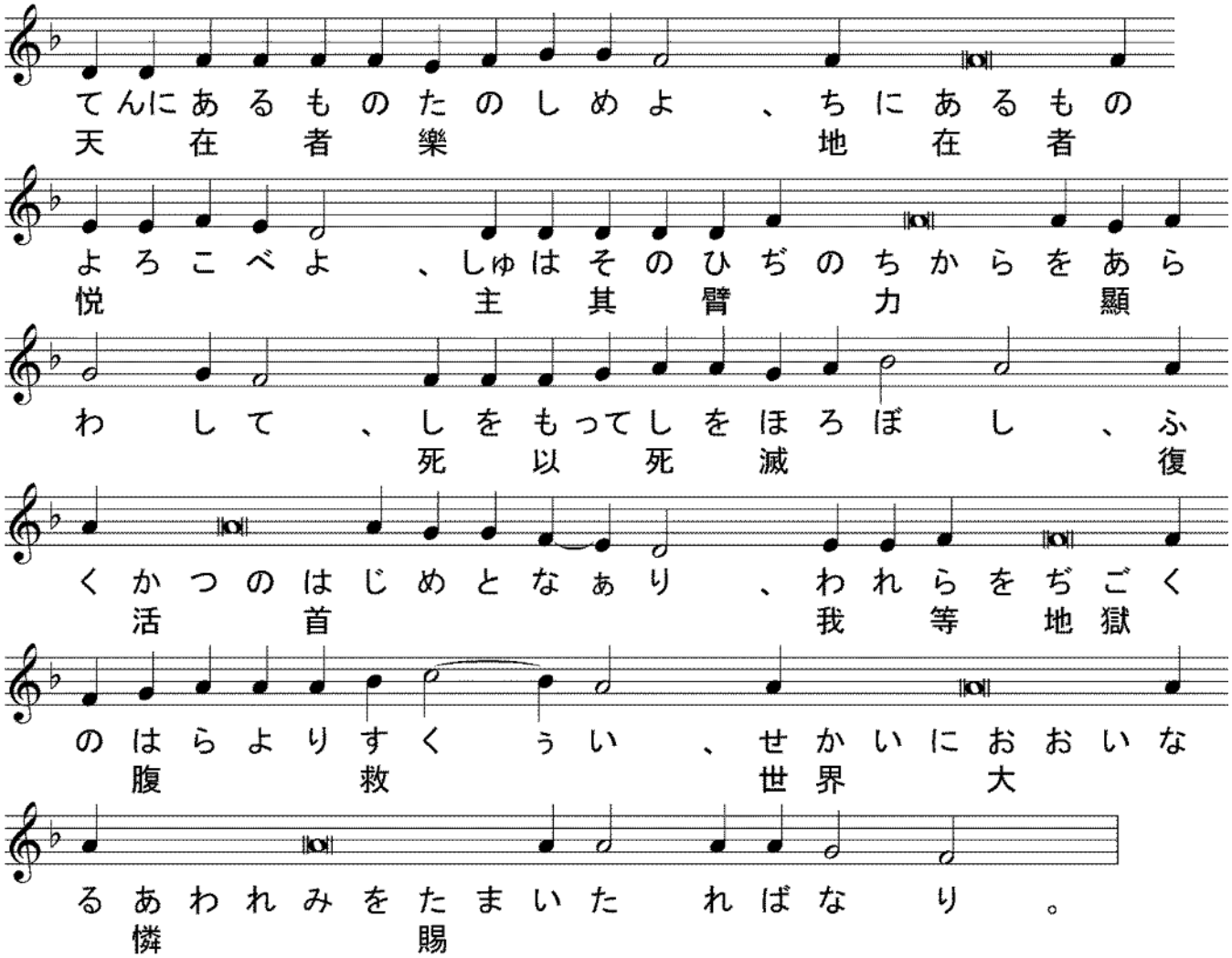
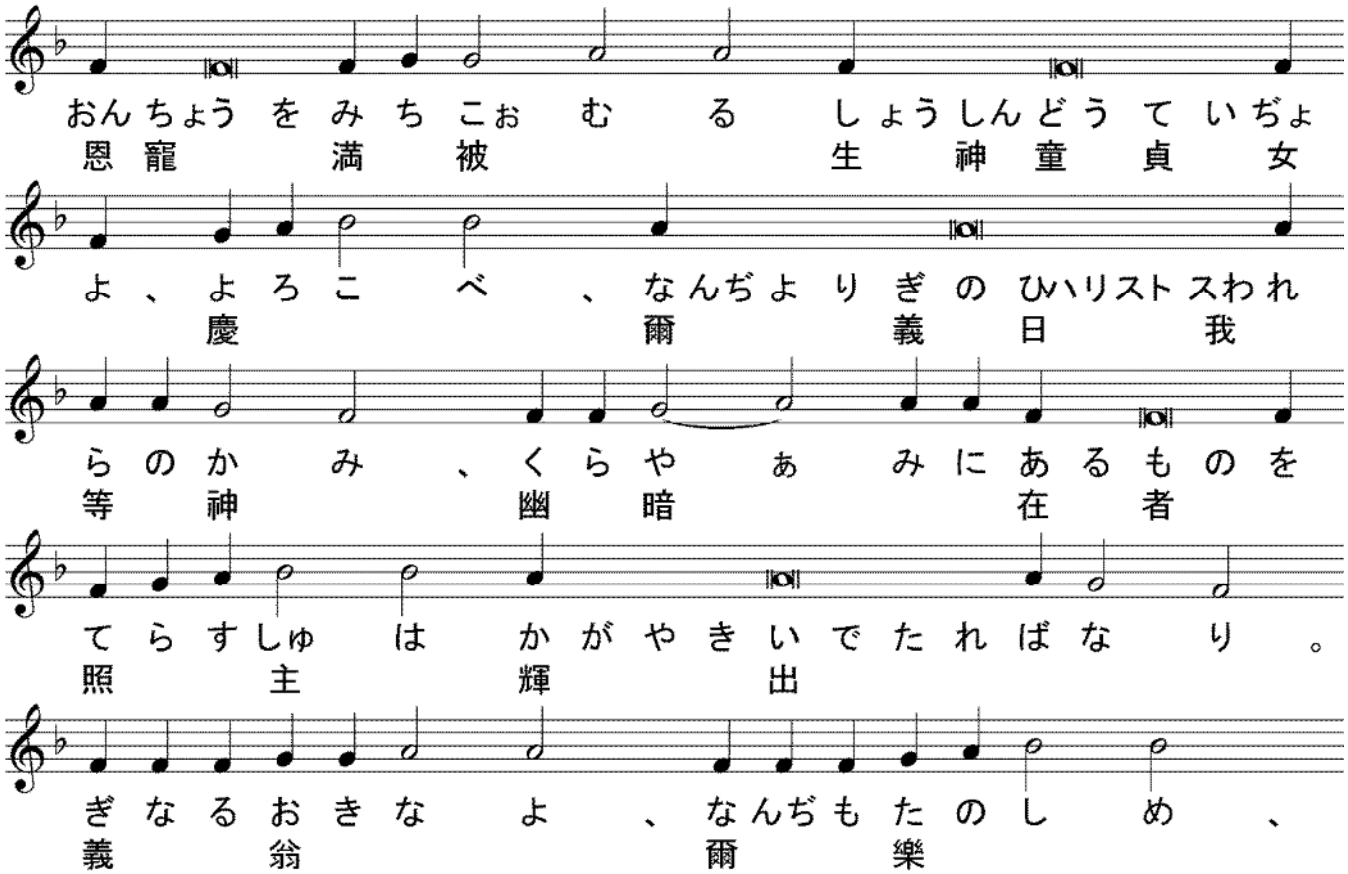
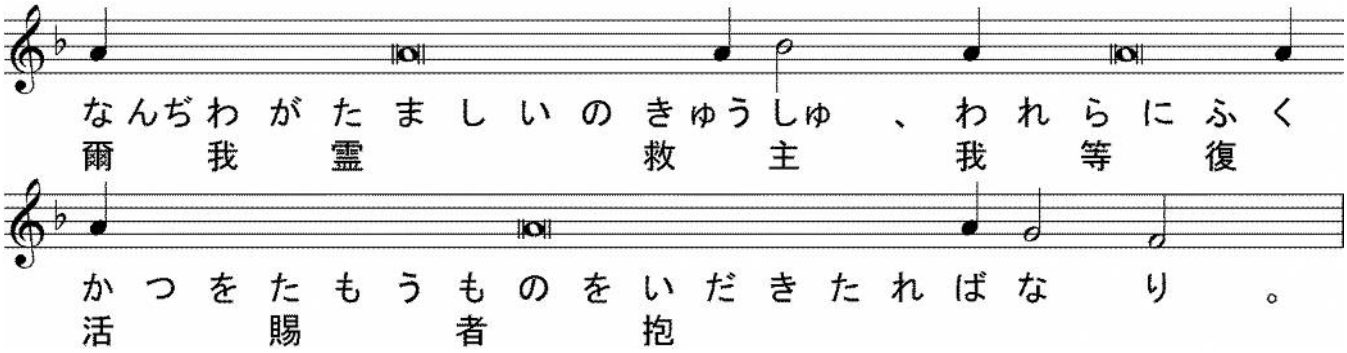
【　復活のトロパリ　第３調　】

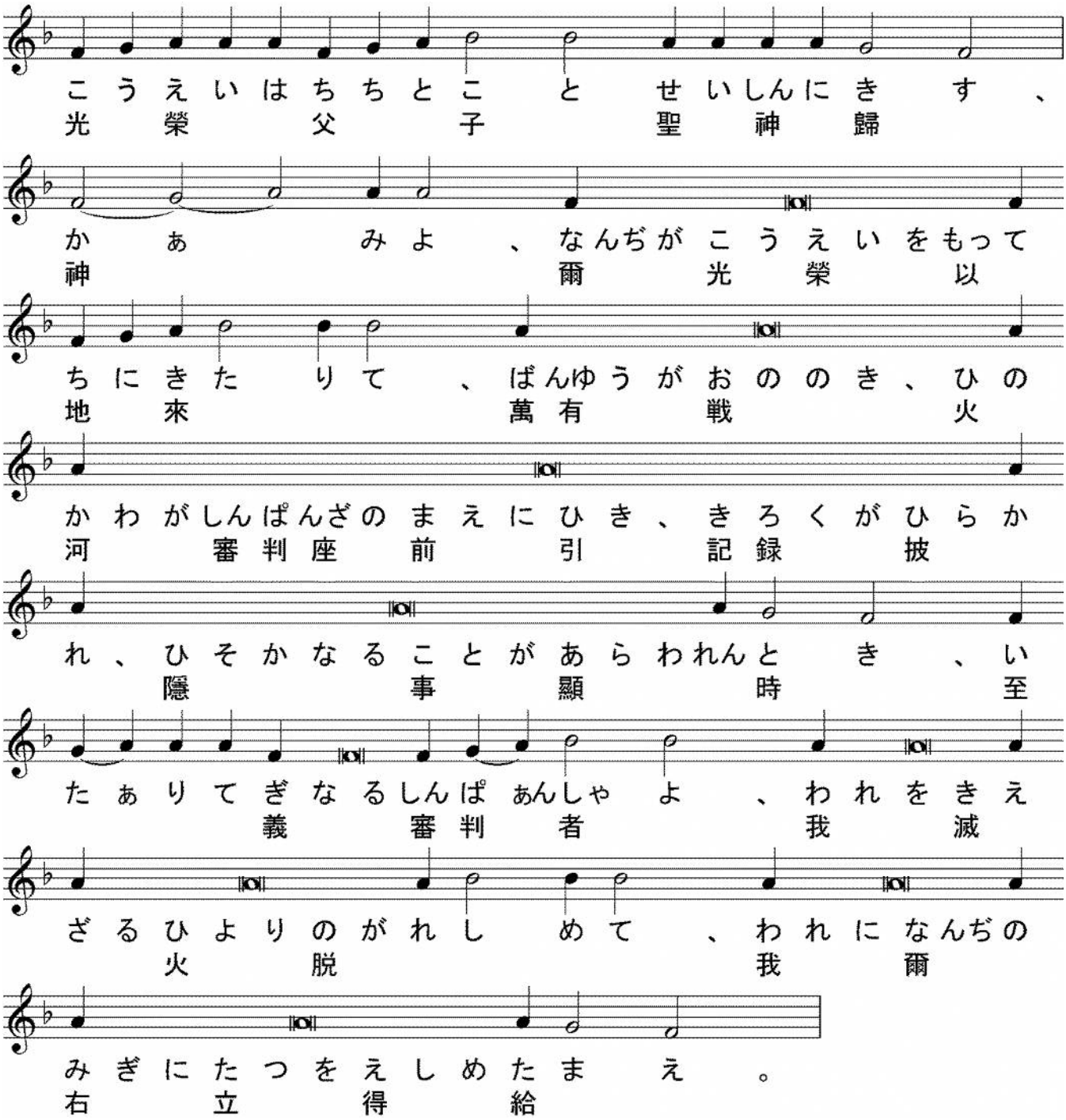


【　迎接祭のトロパリ　第１調　】

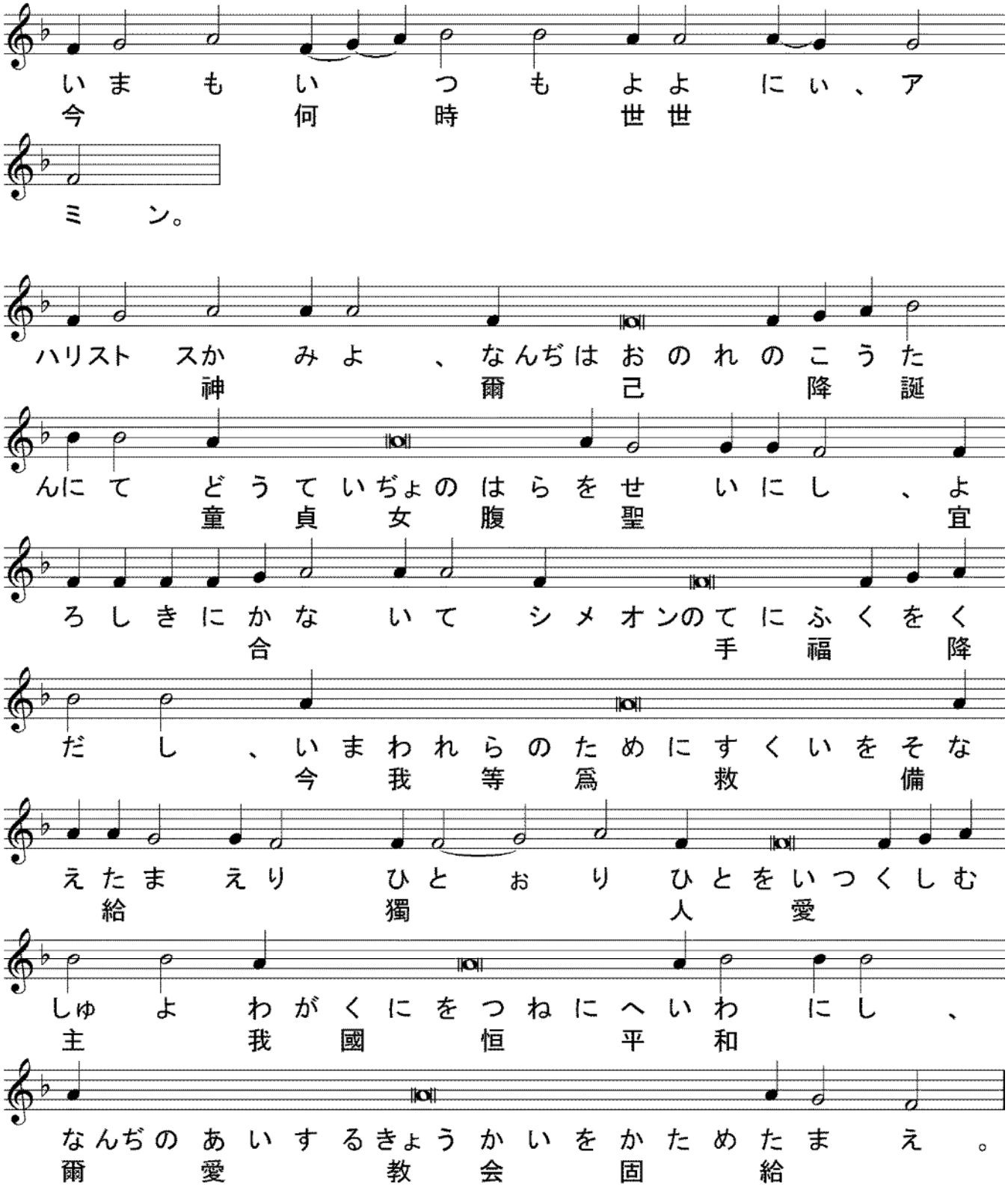




【　審判の主日のコンダク　第１調　】



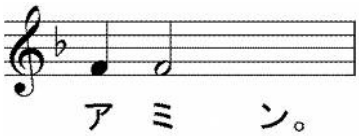
【　迎接祭のコンダク　第１調　】



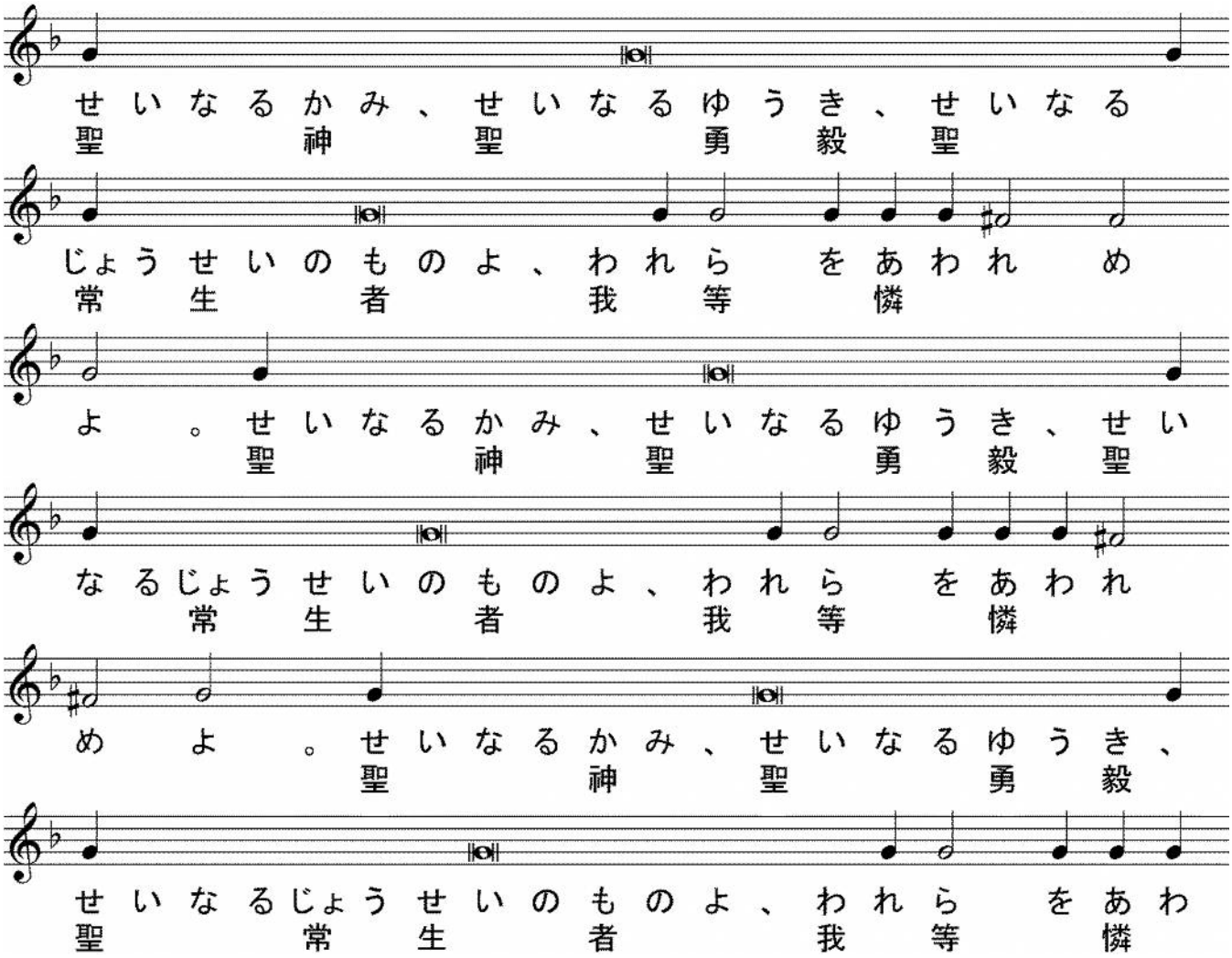
司祭）（ 黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有となし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に痛悔を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖な

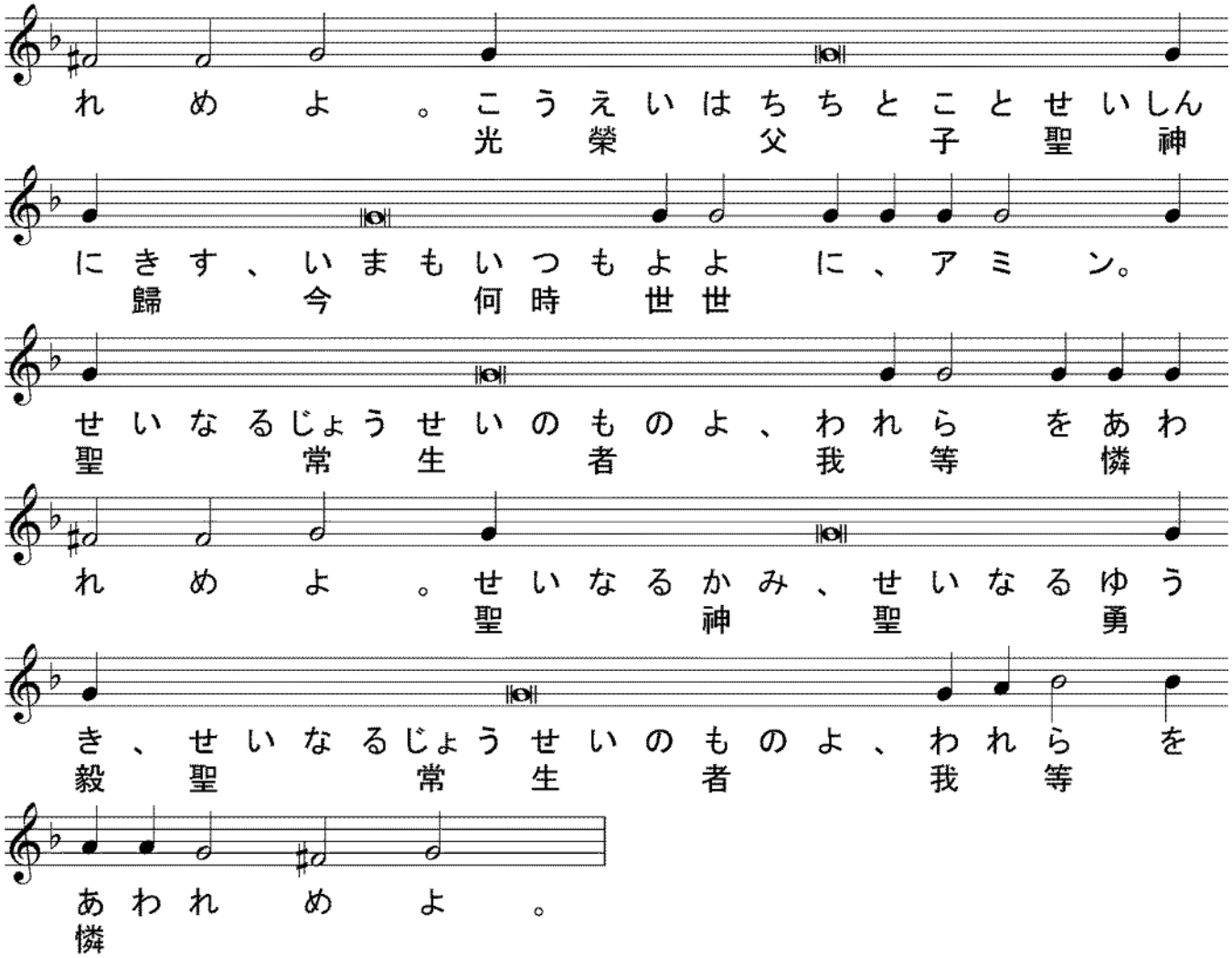
る祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拝讃榮を奉るに堪うる者となしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體とを聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、）

司祭）蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、



【 聖三祝文 】





司祭）（ 黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、 ）

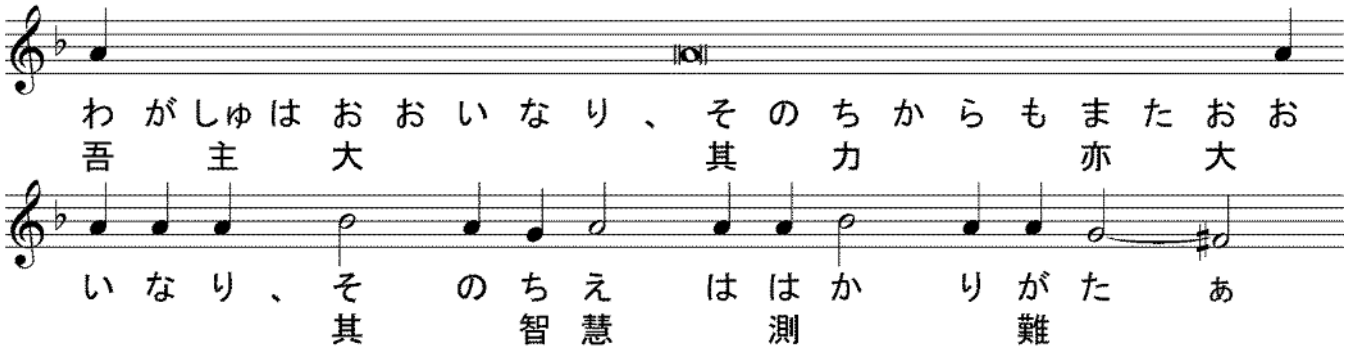
【 提綱 審判の主日の 第３調 及び 迎接祭の 第３調 】

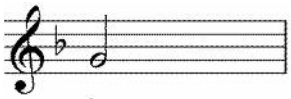
司祭） 愼みて聽くべし、衆人に平安、

誦經） 爾の神にも、

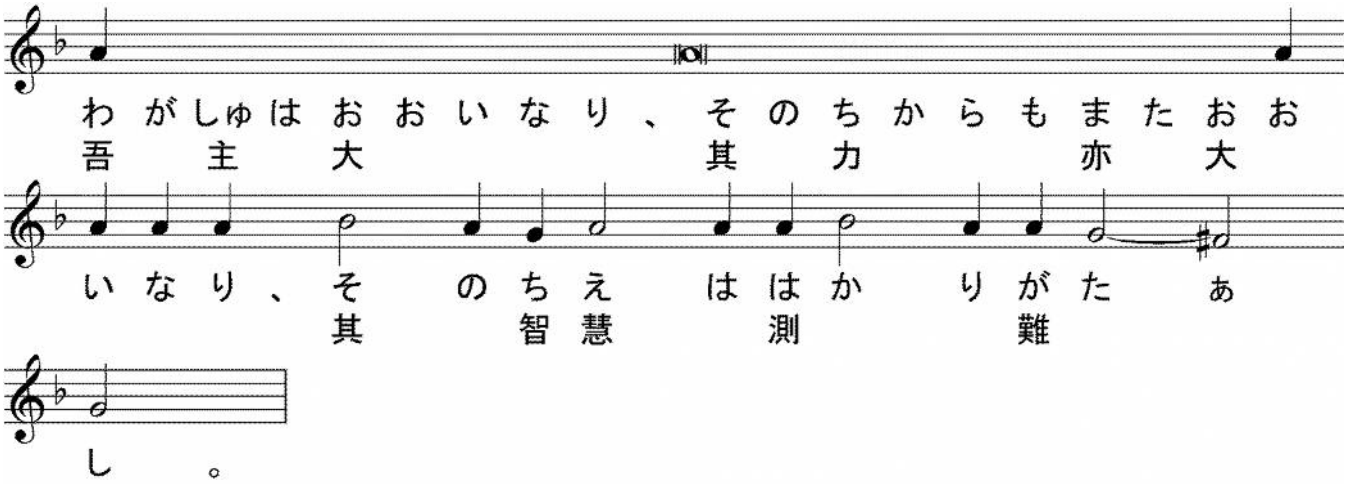
司祭）睿智、

誦經）プロキメン、吾が主は大なり、其力も亦大なり、其智慧は測り難し、

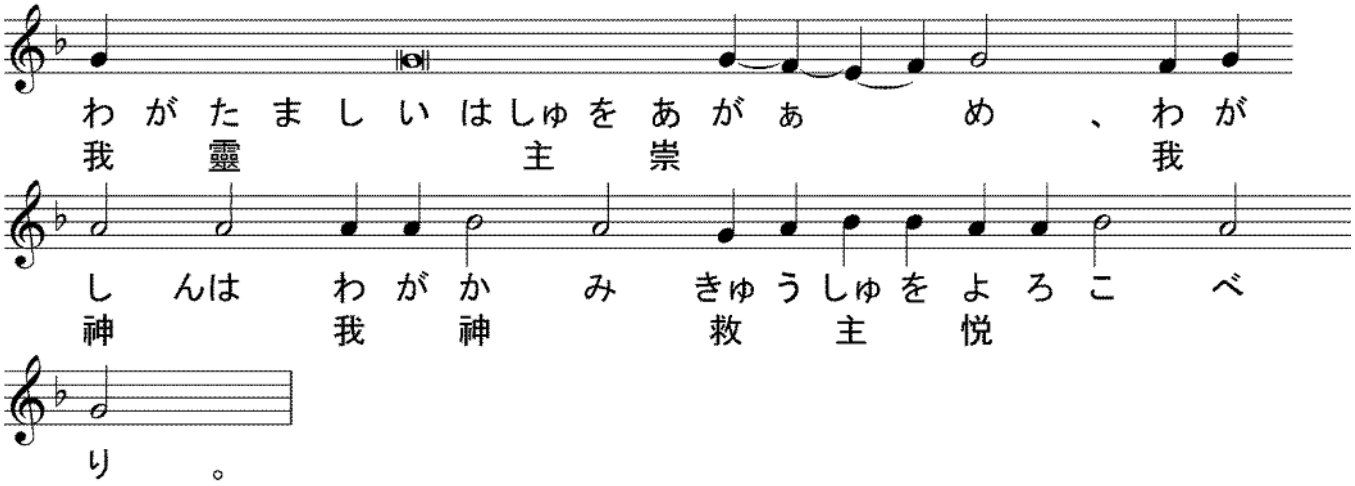




誦經）主を讃め揚げよ、蓋 我等の神に歌うは善なり、是れ樂しき事なり、



誦經）我が 靈 は主を崇め、我が神は神我が 救 主を 悦 べり。



【 使徒經　140端　コリンフ前書8章8節～9章2節 】

司祭）睿智、

誦經）聖使徒パヴェルがコリンフ人に達する前書の讀、

司祭）謹みて聽くべし、

誦經）兄弟よ、食物は我等を神の前に立たしめず、蓋 我等は食うとも、得る所なく、食わずとも、失う所なし。然れども愼め、恐らくは此の爾等の自由は弱き者の躓と爲らん。蓋 若し人、爾 知識ある者が、偶像の廟に坐して食うを見ば、彼 弱き者の

良心は、彼にも偶像に獻げし物を食うを勸めざらんや。然らば爾の知識に因りて、弱き兄弟ハリストスの之が爲に死せし所の者は亡びん。爾等此くの如く兄弟に對して罪を獲、彼等の弱き良心を傷つけて、ハリストスに對して罪を獲るなり。故に若し食物我が兄弟を誘わば、我長く肉を食わざらん、我が兄弟を誘わざらん爲なり。我使徒たるに非ずや。我自主たるに非ずや。我イイススハリストス我等の主を見しに非ずや。爾等は主に於て我の工たるに非ずや。設い我他人の爲に使徒たらずとも、爾等の爲には是なり、蓋爾等は主に於て我の使徒職の印なり。

＊＊

（比較用　口語訳）兄弟たちよ、食物は、わたしたちを神に導くものではない。食べなくても損はないし、食べても益にはならない。しかし、あなたがたのこの自由が、弱い者たちのつまずきにならないように、気をつけなさい。なぜなら、ある人が、知識のあるあなたが偶像の宮で食事をしているのを見た場合、その人の良心が弱いため、それに「教育されて」、偶像への供え物を食べるようにならないだろうか。するとその弱い人は、あなたの知識によって滅びることになる。この弱い兄弟のためにも、キリストは死なれたのである。このようにあなたがたが、兄弟たちに対して罪を犯し、その弱い良心を痛めるのは、キリストに対して罪を犯すことなのである。だから、もし食物がわたしの兄弟をつまずかせるなら、兄弟をつまずかせないために、わたしは永久に、断じて肉を食べることはしない。わたしは自由な者ではないか。使徒ではないか。わたしたちの主イエスを見たではないか。あなたがたは、主にあるわたしの働きの実ではないか。わたしは、ほかの人に対しては使徒でないとしても、あなたがたには使徒である。あなたがたが主にあることは、わたしの使徒職の印なのである。

＊＊

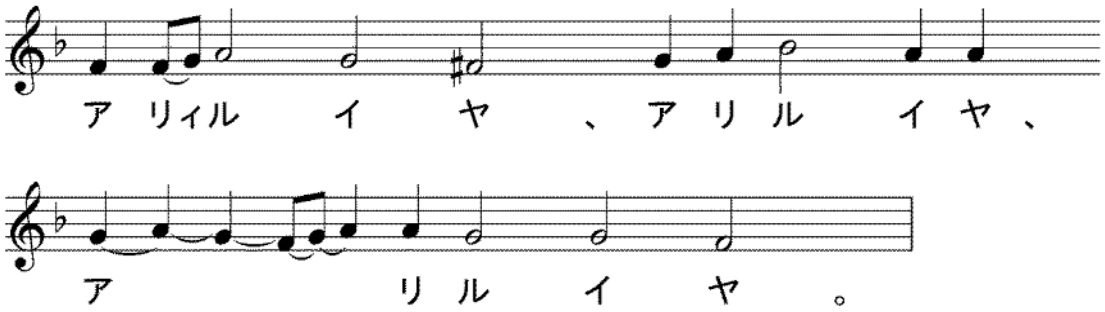
【　アリルイヤ　審判の主日の　第８調　及び　迎接祭の　第８調　】

司祭）爾に平安、

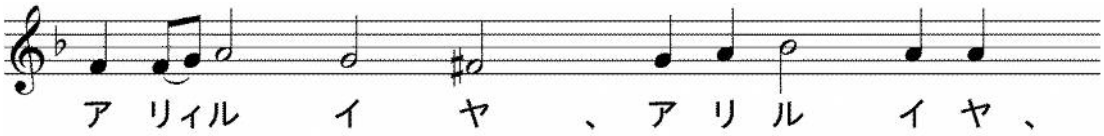
誦經）爾の神にも、

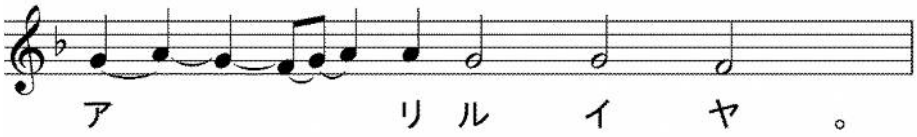
司祭）睿智、

誦經）アリルイヤ、來りて主に歌い、神我が救の防固に呼ばん、

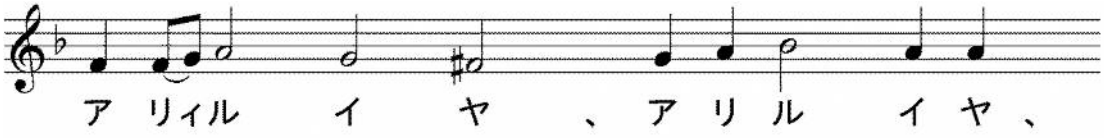


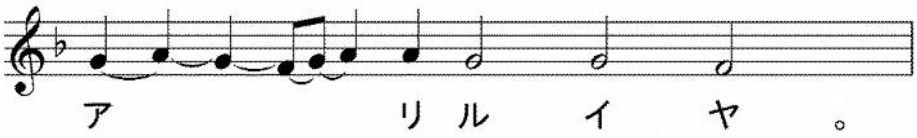
誦經）讚揚を以て其顔の前に進み、歌を以て彼に呼ばん、





誦經）主宰(しゅさい)よ、今爾(いまなんぢ)の言(ことば)に循(したが)いて、爾(なんぢ)の僕(ぼく)を釋(ゆる)し、安然(あんぜん)として逝(ゆ)かしむ、

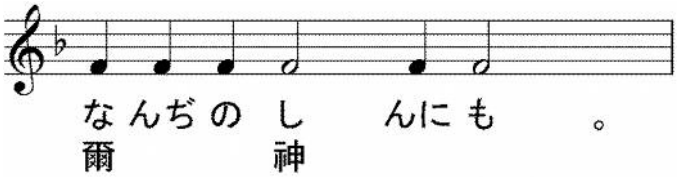




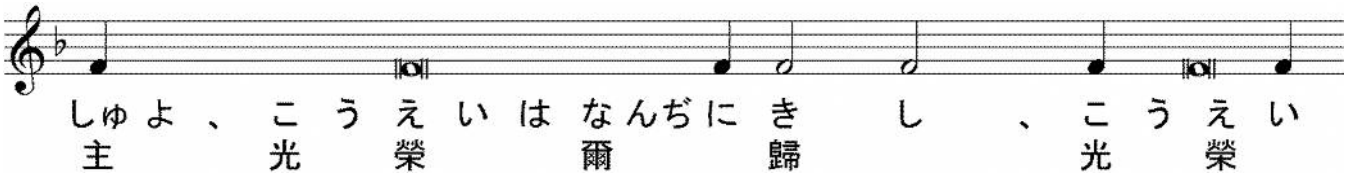
司祭）（ 黙誦: 人(ひと)を愛(あい)する主宰(しゅさい)よ、我(わ)が心(こころ)に神(かみ)を知(し)る智慧(ちえ)の浄(いさぎよ)き光(ひかり)を輝(かがや)かし、我(わ)が思念(しねん)の目(め)を啓(ひら)きて、爾(なんぢ)が福音(ふくいん)の教(おしえ)を悟(さと)らしめ給(たま)え、我(わ)が衷(うち)に爾(なんぢ)の福(ふく)たる誡(いましめ)を畏(おそ)るる畏(おそれ)をも入(い)れて、我等(われら)が悉(ことごと)くの肉體(にくたい)の慾(よく)を踏(ふ)み、凡(およ)そ爾(なんぢ)の喜(よろこ)ぶ所(ところ)を思(おも)い且(か)つ行(おこな)いて、属神(ぞくしん)の生活(せいかつ)を過(す)ぐるを致(いた)させ給(たま)え、蓋(けだし)ハリストス神(かみ)よ、爾(なんぢ)は我(わ)が靈(たましい)と體(からだ)との光照(こうしょう)なり、我等(われらなんぢ)爾(なんぢ)と爾(なんぢ)の無原(むげん)の父(ちち)と至聖至善(しせいしぜん)にして生命(いのち)を施(ほどこ)す爾(なんぢ)の神(しん)とに光榮(こうえい)を獻(けん)ず、今(いま)も何時(いつ)も世世(よよ)に、アミン。 ）

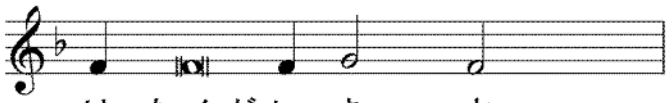
【 福音經(エヴァンゲリオン) マトフェイ福音書106端 25章31～46節 】

司祭）睿智(えいち)、粛(つつし)みて立(た)て聖福音經(せいふくいんけい)を聽(き)くべし、衆人(しゅうじん)に平安(へいあん)、



司祭）マトフェイ傳(でん)の聖福音經(せいふくいんけい)の讀(よみ)、





司祭）謹みて聽くべし、主曰えり、人の子は、其光榮を以て、諸の聖なる天使と偕に來らん時、其光榮の寶座に坐し、萬民彼の前に集り、而して彼は、牧者の綿羊を山羊より別つが如く、彼等を相別ちて、綿羊を其右に、山羊を其左に置かん。其時王は右に在る者に謂わん、我が父に祝福せられし者よ、來りて、創世以來爾等の爲に備えられたる國を嗣げ。蓋我が飢えし時、爾等我に食わせ、我が渇きし時、我に飲ませ、我が旅せし時、我を宿らせ、我が裸なりし時、我に衣せ、我が病みし時、我を顧み、我が獄に在りし時、我に來れり。時に義人等彼に答えて曰わん、主よ、我等何時爾の飢うるを見て、食わせ、或は渇くを見て、飲ませしか。何時爾の旅するを見て、宿らせ、或は裸なるを見て、衣せしか。何時爾の病み、或は獄に在るを見て、爾に來りしか。王彼等に答えて曰わん、我誠に爾等に語ぐ、爾等が之を我が此の至と小き兄弟の一人に行いしは、即我に行いしなり。其時又左に在る者に謂わん、詛われし者よ、我を離れて、惡魔及び其使等の爲に備えられたる永遠の火に往け。蓋我が飢えし時、爾等我に食わせず、我が渇きし時、我に飲ませず、我が旅せし時、我を宿らせず、我が裸なりし時、我に衣せず、我が病み、又は獄に在りし時、我を顧みざりき。時に彼等も答えて曰わん、主よ、我等何時爾の飢え、或は渇き、或は旅し、或は裸なる、或は病み、或は獄に在るを見て、爾に事えざりしか。其時彼等に答えて曰わん、我誠に爾等に語ぐ、爾等が之を此の至と小き者の一人に行わざりしは、即我に行わざりしなりと。此等の者は永遠の苦に往き、義人等は永遠の生命に往かん。

＊＊＊

ときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである』。そのとき、正しい者たちは答えて言うであろう、『主よ、いつ、わたしたちは、あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見て飲ませましたか。いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか。また、いつあなたが病気をし、獄にいるのを見て、あなたの所に参りましたか』。すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言っておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである』。それから、左にいる人々にも言うであろう、『のろわれた者どもよ、わたしを離れて、悪魔とその使たちとのために用意されている永遠の火にはいってしまえ。あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせず、かわいていたときに飲ませず、旅人であったときに宿を貸さず、裸であったときに着せず、また病気のときや、獄にいたときに、わたしを尋ねてくれなかったからである』。そのとき、彼らもまた答えて言うであろう、『主よ、いつ、あなたが空腹であり、かわいておられ、旅人であり、裸であり、病気であり、獄におられたのを見て、わたしたちはお世話をしませんでしたか』。そのとき、彼は答えて言うであろう、『あなたがたによく言っておく。これらの最も小さい者のひとりにしなかったのは、すなわち、わたしにしなかったのである』。そして彼らは永遠の刑罰を受け、正しい者は永遠の生命に入るであろう」。

＊＊＊